

# 報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺  
(安芸教区志和組)  
発行責任 寺報編集委員会  
東広島市八本松町飯田六〇二  
電話〇八二四二八〇一四四



## 得度披露記念法要について

前号にてお知らせしました通り、現在新発意得度披露記念法要を今年五月十七日(日)として準備を進めています。詳細は同封しております。詳しくは同封しております。前号にてお知らせしました通り、現在新発意得度披露記念法要を今年五月十七日(日)として準備を進めています。詳細は同封しております。詳しくは同封しております。



【上】造賀の高木さんがドローン撮影をしてくださいました【下】報恩講での新発意の写真、久しぶりの法衣姿です



この法要に先立ってお稚児さん行列を予定することといたしました。妙徳寺では二十年ぶりのお稚児さん参加者募集となります。前回はお知らせしました。少しの間で定めました。少しの間でも新発意たちと懇親の場を設けたく、また新築した門信徒会館で過ごしたいいただける機会となればと思っております。

### 一語法話

準備の都合により、返信ハガキにて出欠をお聞かせいただくこととなります。どうかご参加いただき、一緒にお祝いさせていただきます。と思います。

正信偈の後半では親鸞さまが大切にされておられる七人の高僧方々をお讃えさせていただきます。前回に引き続き第二祖、天親菩薩(世親菩薩とも三〇〇—四〇〇頃)についての二句をいただきます。

広く本願力の回向によりて群生を度せんがために一心を彰す

私たちは阿彌陀仏のことを見ることも触れることも出来ません。しかし、阿彌陀仏のはたらきは「念仏の回向」という形によって私たちに届いています。天親菩薩は、その「回向」されている阿彌陀仏のはたらきに身を任せるという信心(一心)のようごびを仰せになったのです。

「回向」とは、「回し向ける」ということです。何を回し向けるのかと言えば、阿彌陀仏が自らの功德を苦しむ悩む私たち凡夫に差し向けてくださるということになります。

仏教では供養の語をよく用いますが、それは回向の形であります。故人のために「故人に変わって」お経や仏事を勤めることで功德を積み、その功德を故人に回し供養ということになります。



20年前に行った稚児行列での記念撮影。たくさんご参加いただきました

しかし、浄土真宗の教えでは意味が違います。私たち非力な凡夫は、自らの力では浄土に往生する原因(功德)を作れません。原因を作れなければ、往生という結果は起こりません。阿彌陀仏のはたらきである念仏が往生の正因だとしても、自力のはからい心で念仏するならば、我執(はかり)がつきまとう限りは、それは念仏とは申せません。原因を作れない私に代わって、阿彌陀仏のはたらきを念仏に仕上げて私の往生の原因となってください。その結果を私に振り向けてくださっているのです。それが本願によって「回向」されている他方の念仏です。

## ライン登録のお願い

寺報では対応できない、急な予定変更をすぐにお知らせするためにライン登録をお願いしています。平素は月一、二回程度お知らせを一言配信します。なお、お寺にお参りいただくたび、ポイントをつけていただくと粗品を贈呈するお楽しみもつけています。



このQRコードを読み込むか、@985fghgyを検索してください

## 行事予定

裏面記載の行事にもご参加ください  
「ホームページ」行事案内」で随時予定を公開しています

四月二十六日(日)

午前十時より 初参式  
午後一時より 会員追弔会、法座

## 仏婦法座(ぶつぽうざ)

講師 東京北区王子布教所住職 大江和正師

五月十七日(日) 午前九時、午後一時

## 新発意得度披露記念法要

詳細は「記念法要のご案内」をご覧ください

五月二十一日(木) 午前九時から一時間

## 宗祖降誕会(しゅうぞうたんえ)

※ごとも園の園児たちと一緒に本堂でお参りします

本堂にお掛けの七高僧図の天親菩薩。如意棒をお持ちです



私に出来ることは、ただ「南無阿弥陀仏」とありがごとくという気持ちでお念仏申すだけなのです。

「群生」とは、「衆生」のこと。「あらゆる生きもの」という意味です。「度する」とは、「渡らせる」ということです。苦悩に満ちた苦しみの世界から、苦悩が解消した清らかな世界へと渡らせるのです。

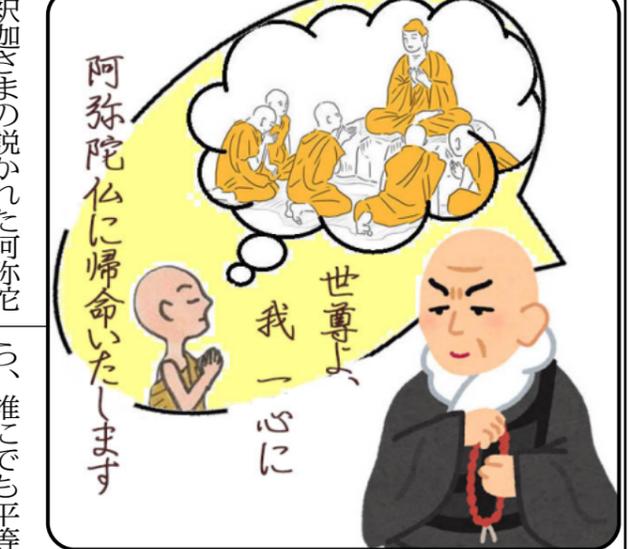
### 四十八願について 第七願「天耳遙聞」

わたしが仏になるとき、わたしの国の天人や人々が天耳通を得ず、数限りない仏がたの説法を聞きとれないようになら、私は決してさとりを聞きません。

阿弥陀仏は四十八の願いを建てられました。今回は第七願です。前回の第六願は天眼通についてでしたが、今回は天

「一心」とは、「信心」のことです。天親菩薩は「本願」によって「回向」されている「信心」の意味を『浄土論』に注釈されています。親鸞さまが述べられた言葉に「如来よりたまりたる信心」とあります。それが天親菩薩の言葉が根拠となっています。

天親菩薩の著書『浄土論』は「世尊我一心 帰命尽十方 無碍光如来 願生安樂」



合同墓・墓地案内  
有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地です。ご相談ください

妙徳寺ホームページ  
<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>

**「書道教室」**  
ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。(毎月3回程度の金曜日 午後2時半～午後5時の間)  
※金谷雷聲先生(蕾門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生へのFAX0823-82-9565 または妙徳寺へご連絡ください。

**「おみのりサロン」開催予定日**  
3月 9日(月) 4月 20日(月)  
5月 20日(水) 午後2時より1時間半  
(住職が本堂に待機、相談をお受けします)

「かくのごときもの多、その所聞にかなひて。歡喜無量なり」  
國中の天人は、みな水や風その他いろいろのものから尊い仏の声を聞き、法の声を聞き、僧の声を聞き、三宝の声を聞く。つまり水の声でも風の声でも又人の声でも、いろいろの境遇からでも、いろいろ尊い法を聞く力をいただくことができるのです。あらゆるところから大切な声を聞くことができる、仏法者の喜びというものはそういうものな

積迦さまの説かれた阿弥陀仏の教えに対して、二心なく、疑いなく、聞いていくことが「信心である」と説明されておられるのです。親鸞さまの「如来よりたまりたる信心」というよるこびは、如来のはたらきが回向されての信心ですか

ら、誰にでも平等に届いている信心であることを受け止めておられるところにあるように思われます。それは信心のことを「御信心」というのは、私のものではなく、阿弥陀仏からのいただきものだからです。

「天親菩薩は「阿弥陀仏」

耳通についてです。見ることと聞くことの受け止め方についての願いで、根本は共通したお心であるということができます。

悟りを開いて阿弥陀仏となり限らない功德を得た様子について、お経の中から教えていただくことができますが、そこにはこのように表わされています。

「國中の天人は天耳智通を得る、勝れたる耳に関する心の通力を得る」「自然の妙声、その所應にしたがひて、きこえざるものなし」



**志和組テレホン法話「みのりの電話」**  
しじゅうさんざん しくはつく  
082-433-4989

3月 1日～	西方寺	安國 真雄
3月 11日～	寿福寺	田中 幸恵
3月 21日～	照栄寺	井口 英隆
4月 1日～	長松寺	中田 充法
4月 11日～	妙徳寺	大江 了証
4月 21日～	西方寺	安國 晴子
5月 1日～	天龍寺	天野 由昭
5月 11日～	寿福寺	田中 真
5月 21日～	浄蓮寺	沼田 典生

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

**「写経の会」**  
3月 27日(金) 4月 24日(金) 5月 22日(金)  
それぞれ午後2時より  
申し込みは 代表\_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ

**「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」**  
3月 14日(土) 4月 11日(土) 5月 9日(土)  
それぞれ午後2時より  
申し込みは 代表\_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ

**「妙徳寺仏教壮年会例会」** (原則毎月第2土曜日)  
3月 14日(土) 午後6時より 定例会  
4月 11日(土) 午後6時より 定例会  
5月 9日(土) 午後6時より 定例会